



創業者精神を載せて、未来へ。

福岡運輸 物流DXの取組み

2023年2月21日

 福岡運輸株式会社

企業紹介

設 立	1956年10月
本 社	福岡県福岡市博多区空港前2丁目2番26号
事業内容	全国ネットワークによる定温輸送ならびに 倉庫事業による総合物流サービスの提供
売 上 高	227億円（2022年3月期）
従業員数	611名
車両台数	271台（12月末時点）
拠 点 数	23拠点

物流を通して社会のお役に立つ

～フロンティアスピリットを持つ総合物流企業～

福岡運輸株式会社は、昭和33年に日本で初めて機械式冷凍車を開発することで、「**“定”**温輸送」という新機軸を打ち出し、食の安心・安全と社会の発展に寄与してまいりました。

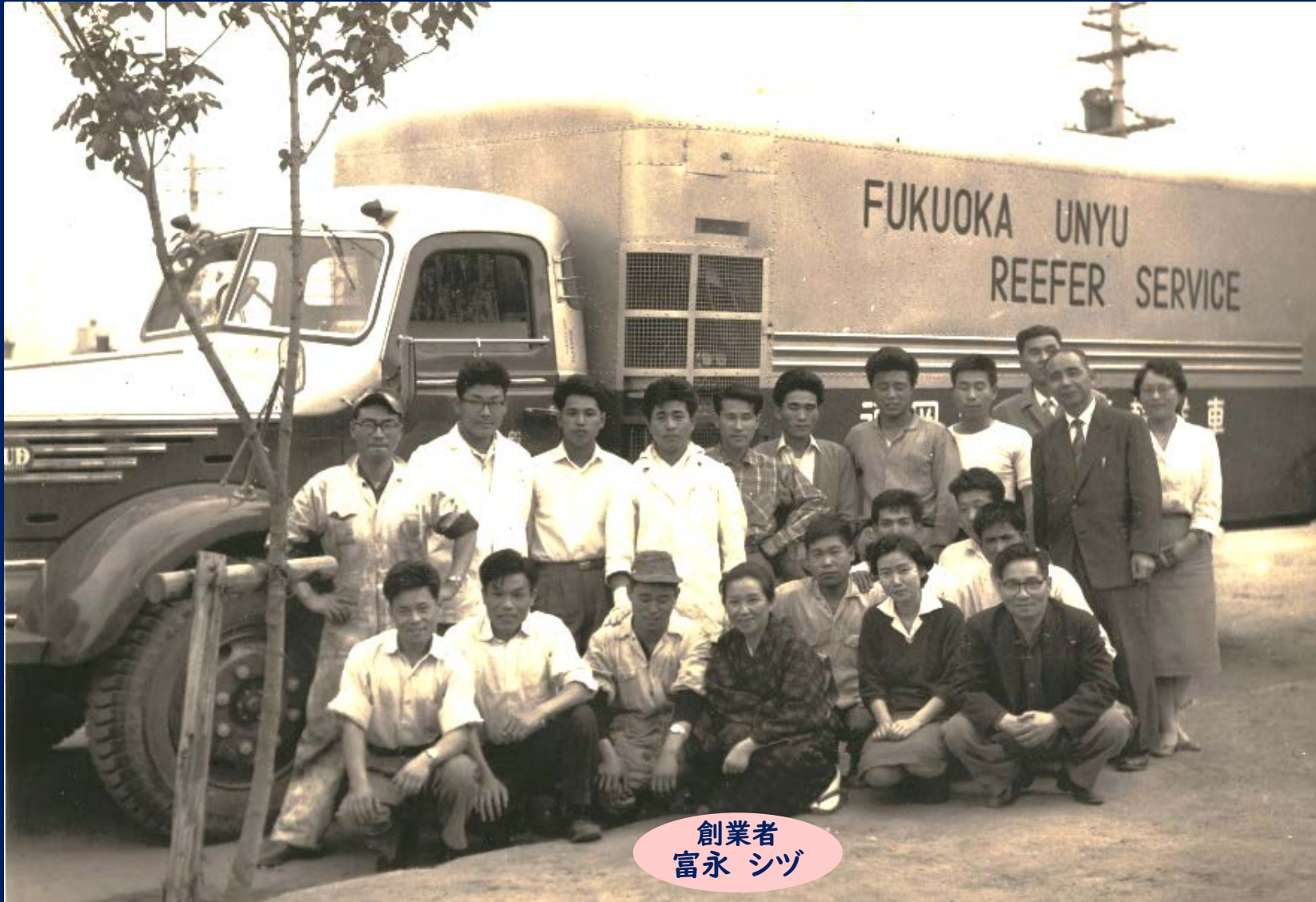
そして今、未曾有の物流危機が叫ばれる中で社会環境の変化や自然災害への対応、環境負荷軽減など物流の在り方も大きく変わろうとしています。

私達は、「社会のお役に立つ企業」として在り続けます。



History

1958年(昭和33年) 日本で初めて冷凍車を走らせました



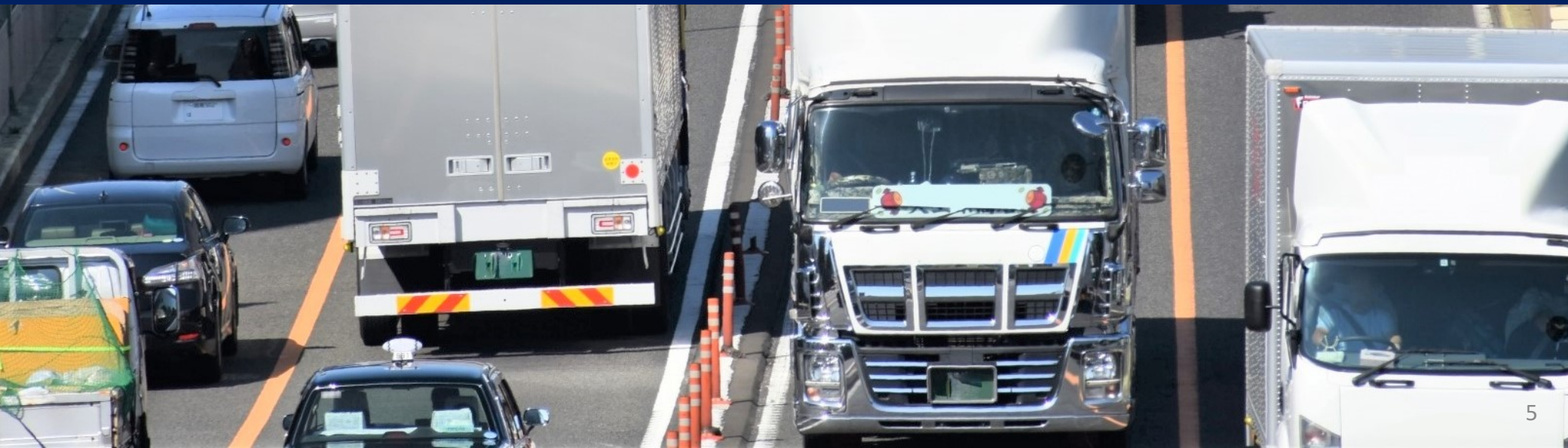
創業者
富永 シヅ



国産第一号機械式冷凍車



物流業界の課題



物流業界の課題

現状

手荷役主体の
業務

荷待時間の
発生

多頻度・小ロット
配送

複雑な
オペレーション



物流が抱える課題

人手不足

長時間労働

低賃金

労働生産性の低さ



働き方改革への対応

2023年4月～

月60時間超の
時間外割増賃金率
引上げ
(25% → 50%)

2024年4月～

時間外労働の
上限規制適用
(年間960時間)

労働集約型からの脱却

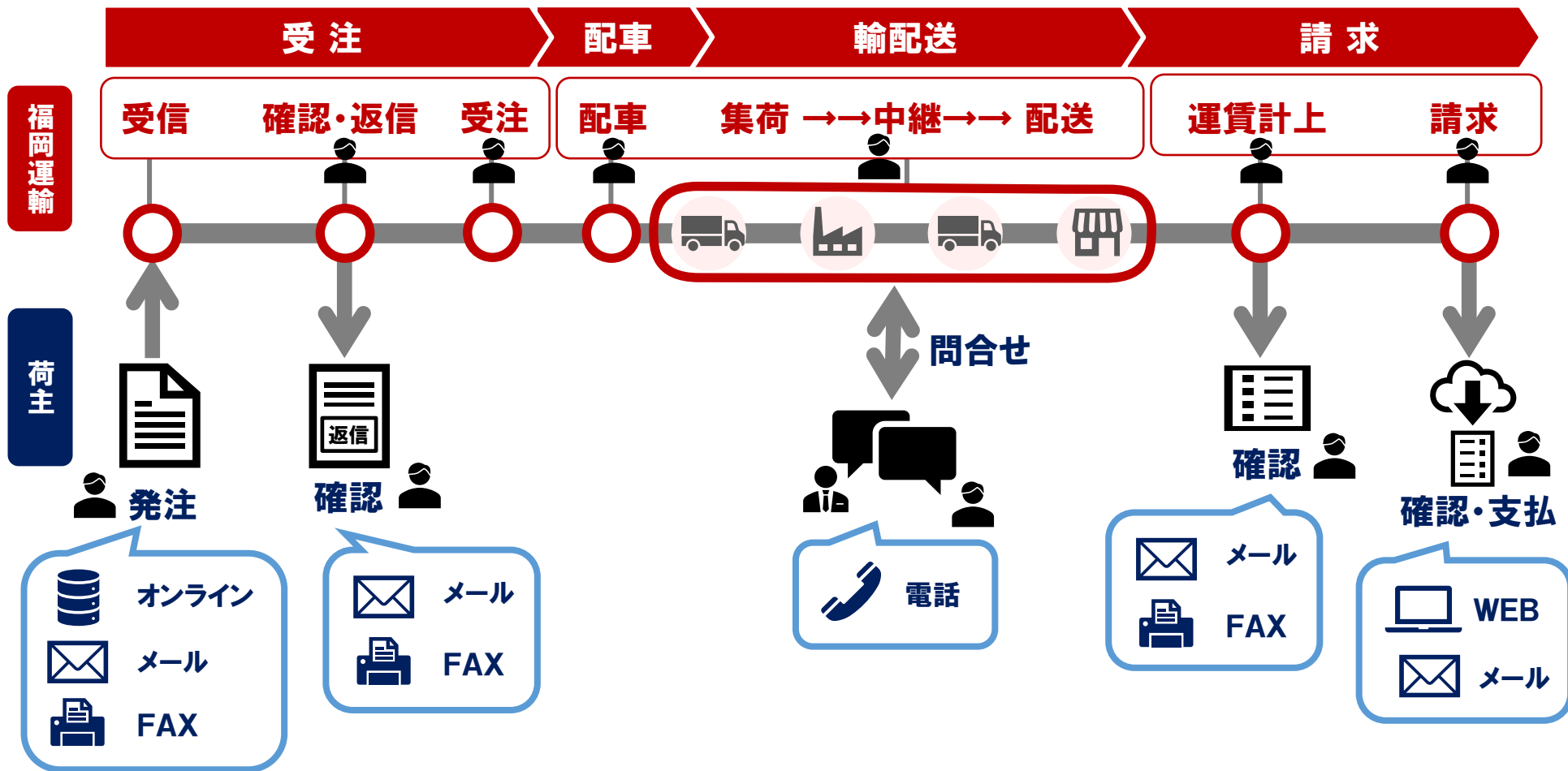


福岡運輸の取組み



取組みにあたって（現状と課題）

アナログツールによる情報のやり取りが主流



データを集約し【可視化・共有化・同期化】する環境が無い

取組みにあたって（現状と課題）

アナログツールによる業務・情報のやり取りが主流

データを集約し【可視化・共有化・同期化】する環境が無い



課題

- 情報のやり取りのデジタル化
- デジタライゼーションによる業務の可視化
- 商流・物流データの連携
- 物流ビッグデータの蓄積

業務毎に

- ▶ プロセスの「**標準化**」「**省人化**」「**自動化**」
- ▶ 発生する情報の「**可視化**」「**共有化**」
- ▶ 業務を変革できるような「**仕組作り・場の創出**」

受注

配車

輸配送

請求

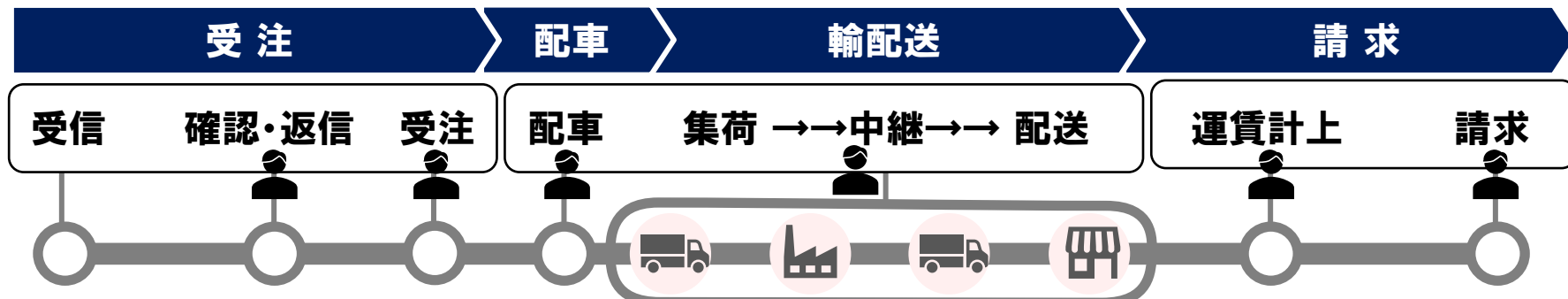
CASE 1

物流情報プラットフォームの構築 (2021年～)

2021年度 福岡市中小企業等DX促進モデル事業

取組みにあたって（現状と課題）

アナログツールによる情報のやり取りが主流



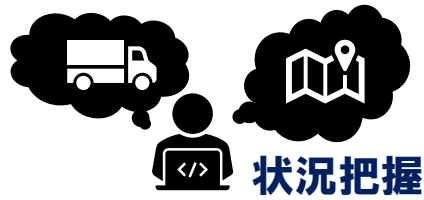
基幹システム（受注・配車・請求）

バス予約・受付システム

動態管理システム

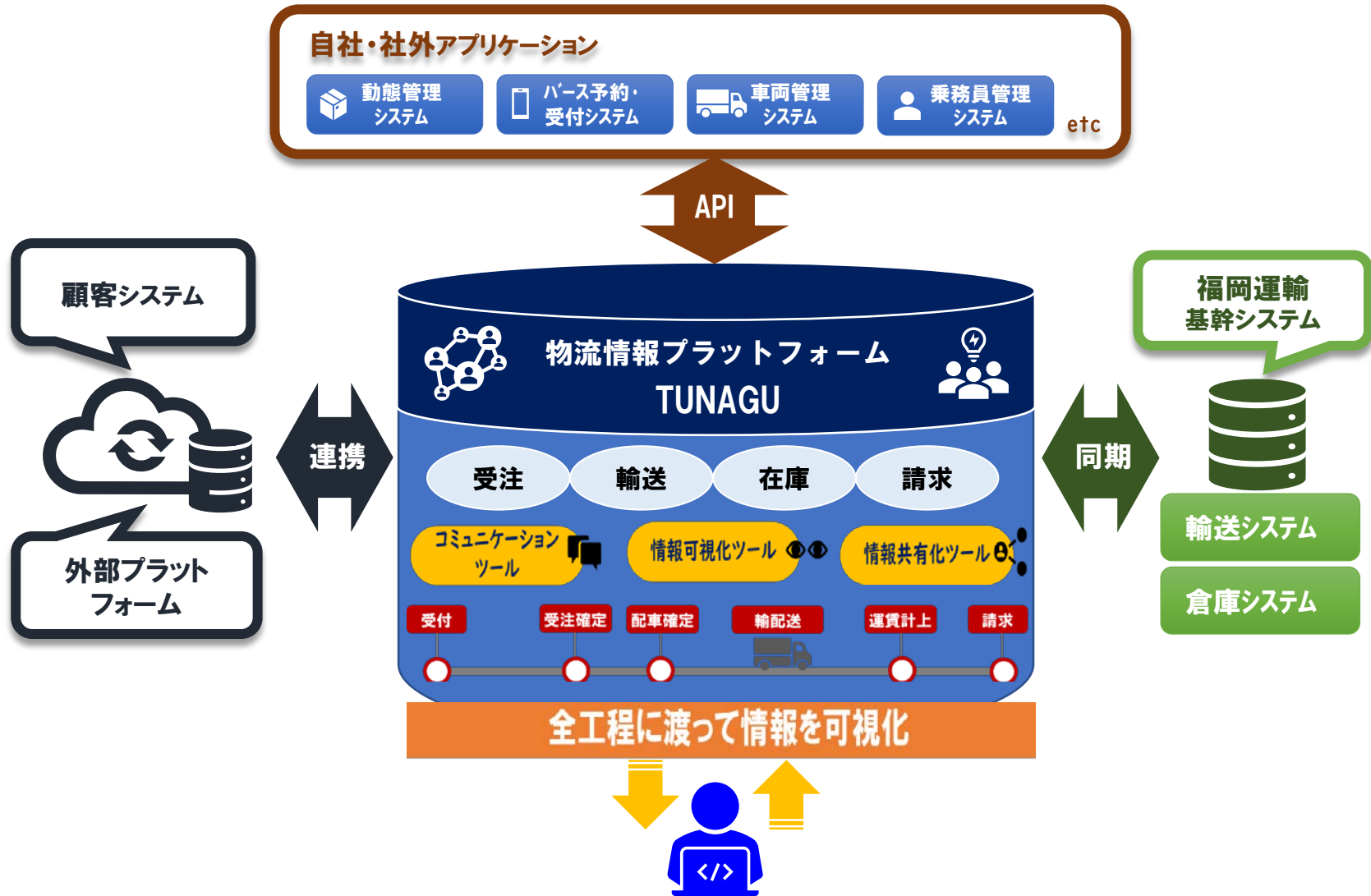
車両管理システム

乗務員教育・研修アプリ



データを集約し【可視化・共有化・同期化】する環境が無い

物流情報プラットフォーム「TUNAGU」の概要



企業・職種・業務の垣根を越えて物流情報を連携しシェアできる
物流情報プラットフォーム(場)の構築

DXに向けた取組み

2021年度

phase1

プラットフォームの構築

- ・デジタル化移行ツールの整備
- ・データ共有環境の構築
- ・物流ステータスの可視化

phase2

デジタイゼーション・デジタルライゼーションの推進

- ・アナログからデジタルへの転換
- ・オペレーションの標準化・省人化
- ・物流プロセスの見える化・共有化

phase3

物流DXの実現

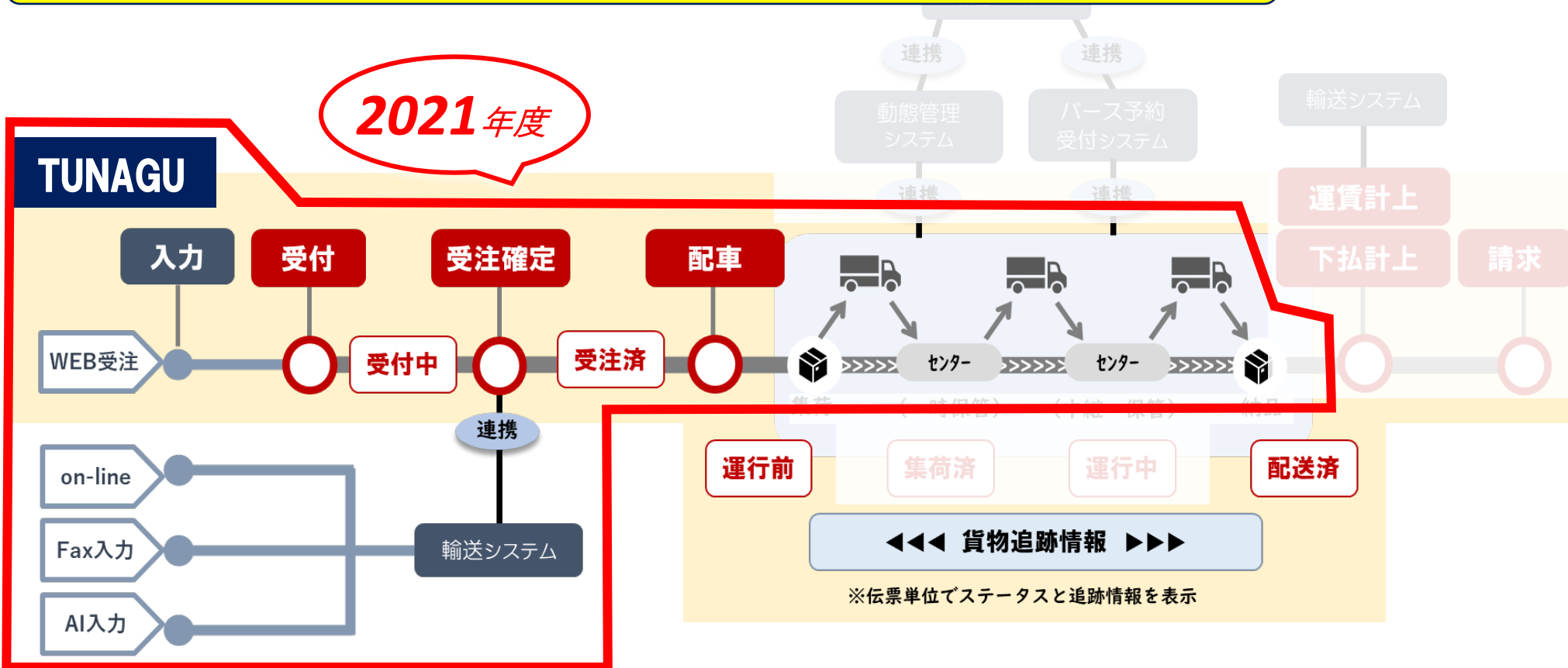
- ・物流全体の最適化
- ・データを新たな資源として活用
- ・組織改革・人材育成

Phase1で実現したこと

WEB受注の導入により、受注入力業務を効率化

チャット機能により、電話・FAXのやり取りをデジタル化

社内のデータを統合し、受注受付～運行完了までのステータスを可視化



DXに向けた取組み

2022年度

2021年度

phase3

phase1

プラットフォームの構築

- ・デジタル化移行ツールの整備
- ・データ共有環境の構築
- ・物流ステータスの可視化

phase2

デジタイゼーション・ デジタライゼーションの推進

- ・アナログからデジタルへの転換
- ・オペレーションの標準化・省人化
- ・物流プロセスの見える化・共有化

物流DXの実現

- ・物流全体の最適化
- ・データを新たな資源として活用
- ・組織改革・人材育成

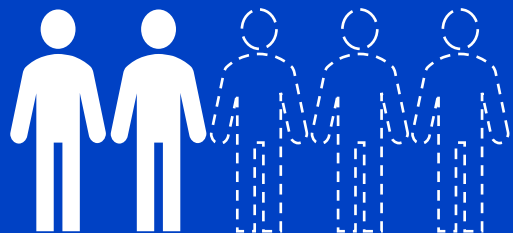
CASE 2

集配業務のデジタル化 (2022年～)

2022年度 福岡市中小企業等DX促進モデル事業

課題

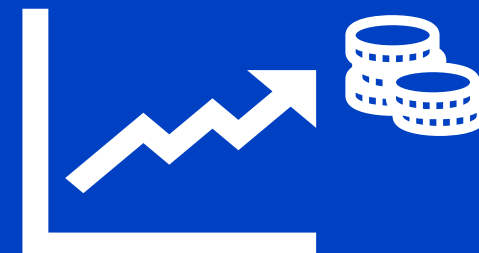
ドライバー人口の減少



稼働時間の短縮



コスト上昇



協力会社を含めた車両活用の効率化

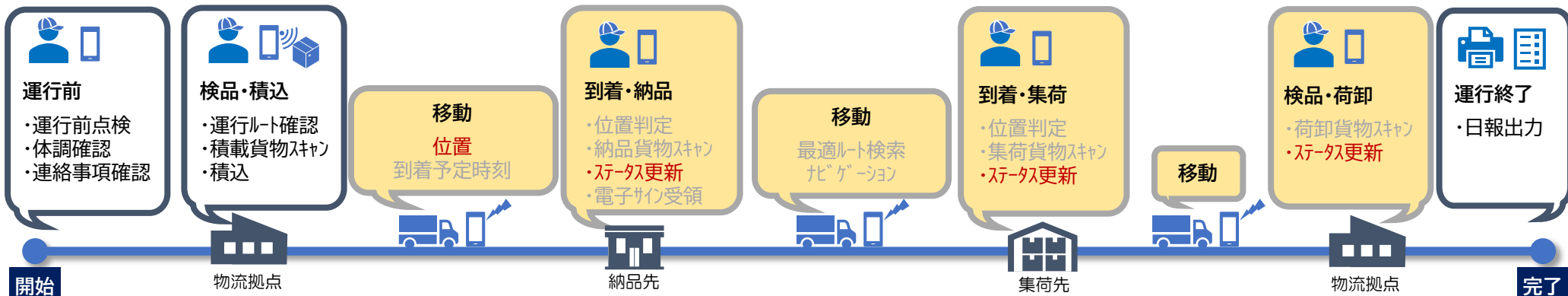
全工程・職種の労働生産性向上・紙の極小化

ドライバー支援ツールの強化

人材の確保・育成

現状 動態管理システム（2016年稼働開始）

集配業務フロー



・メッセージ送受信
 ・トラブル報告/写真撮影

・進捗確認
 ・配車変更

・データ分析
 ・最適化

顧客・協力会社
 ・進捗確認、受領書照会

アナログツールによる業務が残っている

紙での指示	紙と目視での検品	紙帳票に受領サイン	日報手書き	紙・口頭による 軒先情報共有	電話による確認・ 問合せ	システム間の データ連携なし
-------	----------	-----------	-------	-------------------	-----------------	-------------------

現在地

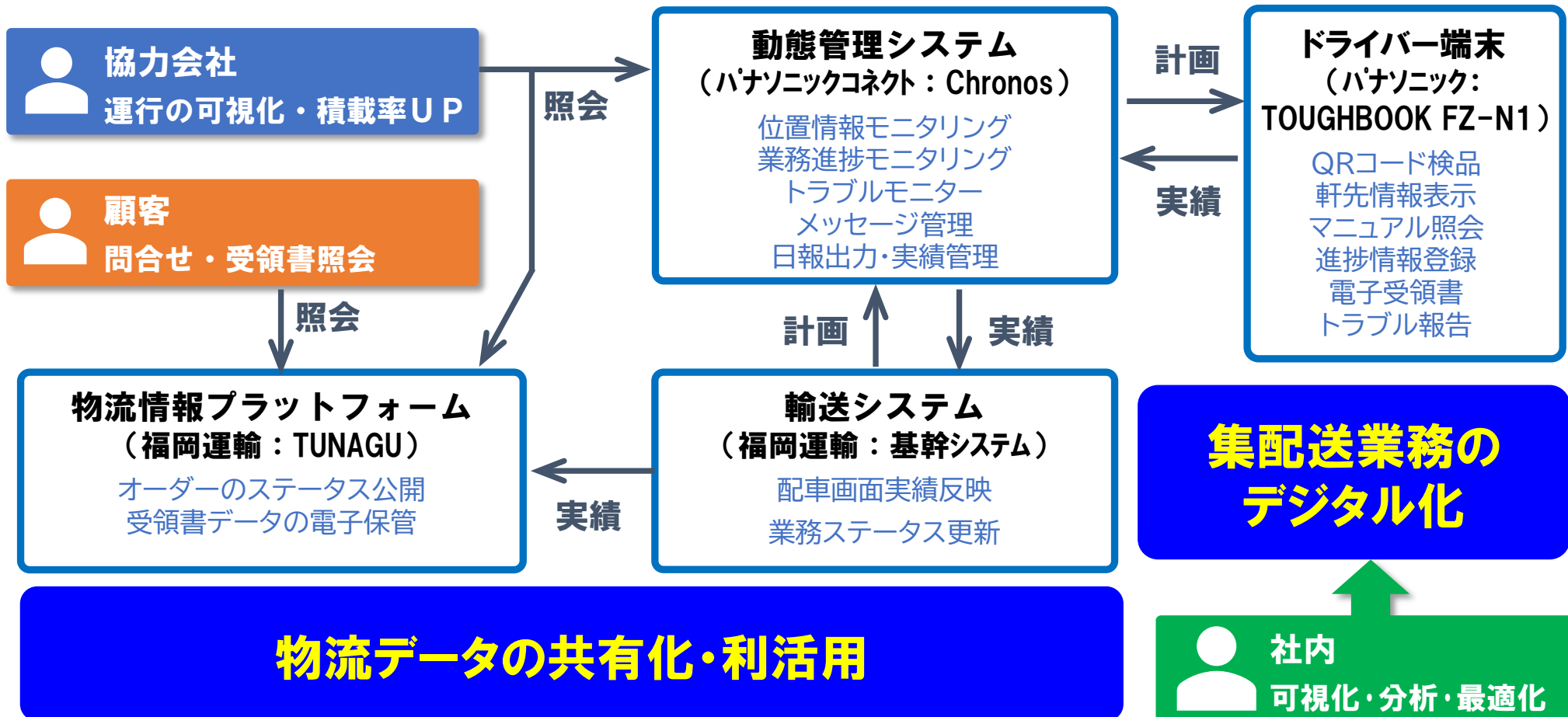
状態

進捗

の可視化を実現

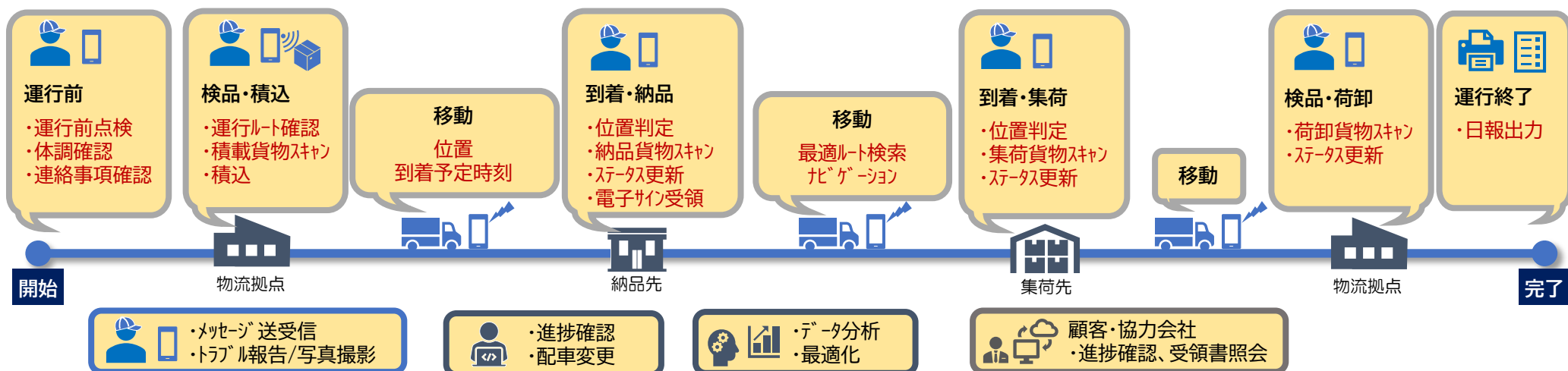
機能強化 & データ連携

集配プロセスの可視化



動態管理システムのリプレース（2023年稼働開始）

集配業務フロー



Before



紙での指示



紙と目視での検品



紙帳票に受領サイン



日報手書き



紙・口頭による
軒先情報共有



電話による確認・
問合せ



システム間の
データ連携なし

After



端末を介した指示



スキャンによる検品



電子帳票に電子サイン



日報出力



端末による
軒先情報共有



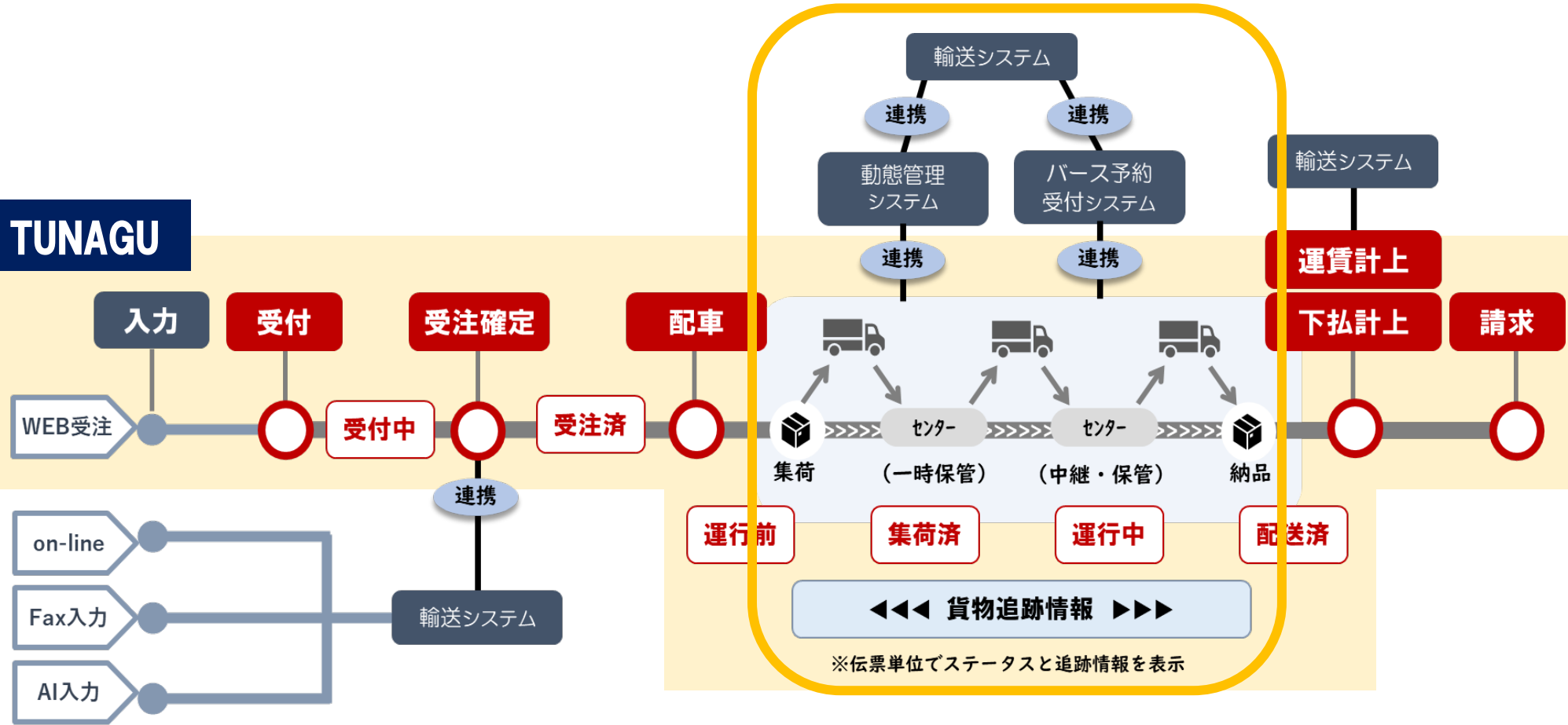
進捗情報を
システムで確認



システム間の
データ連携あり

TUNAGUへの連携

TUNAGU



DXに向けた取組み

2021年度

phase1

プラットフォームの構築

- ・デジタル化移行ツールの整備
- ・データ共有環境の構築
- ・物流ステータスの可視化

2022年度

phase2

デジタルイノベーション・ デジタルライゼーションの推進

- ・アナログからデジタルへの転換
- ・オペレーションの標準化・省人化
- ・物流プロセスの見える化・共有化

2023年度

phase3

物流DXの実現

- ・物流全体の最適化
- ・データを新たな資源として活用
- ・組織改革・人材育成

CASE 3

DX認定取得に向けた取組み

**2022年度 地域DX活動支援事業
(DX共創ラボin九州コミュニティ)**

1. 現状の把握・ビジョンの確認

現在地とありたい姿、目指すべき方向性を明確にする

2. ビジョンの実現に向けた中長期的な戦略立案

ビジョンと現状のギャップ分析による課題の明確化と道筋の検討

3. ビジョン・戦略の共有化・機運醸成

DX実現に向けたビジョン・戦略を全社の共通ミッションとして周知する



取組みにおけるキーポイント



✓ 素早く作り運用・改善を図ること

✓ つながること・つなげることを意識すること

✓ 将来にわたって変化に対応できるようにすること



創業者精神を載せて、未来へ。

END